

優秀賞  
(子どもの部)

「いのちのまつり」

荒川区立赤土小学校三年

大沢 悠香

やなぎ田先生こんにちは。この本はわたしのお  
ばあちゃんからもらったもので、大切な本です。

先生はおきなわに行ったことありますか？わた  
しはおきなわが大すきで家族で何回も行きました。  
このいのちのまつりはオバアがはじめて島にやっ  
てきたコウちゃんにおきなわどくとくのおはかの  
ことや、ご先ぞさまの話をする本です。

オバアが「いのちをくれた人をご先ぞさまと言  
うんだよ」とおしえてくれます。わたしはお父さん

お母さんおじいちゃんおばあちゃんは顔を知って  
いますが、そのまたひいおじいちゃんひいおばあ  
ちゃんとその先は知りません。今まで考えたこと  
ありませんでしたがずっといのちがつながってい  
ると思うときせきを感じます。わたしはご先ぞさ  
まのだれににているんだろうと考えると、すこし  
楽しい気もちになります。

数えきれないご先ぞさまがだれひとりかけても  
ぼうやは生まれてこなかったということや、ぼう  
やのいのちのご先ぞさまのいのちでもある、とい  
うオバアの言葉がいんしょうにのこっています。  
わたしのいのちは大切なんだと思いました。わた  
しもしょうらいけっこんしてこどもが生まれたら  
いのちがつながって行くんだなあと思います。こ  
どもにもいのちのまつりを読んであげたいです。

この本は絵がおもしろくて、特にご先ぞさまの顔がたくさん出てくるところがおすすめです。

今はとくに住んでいるおじいちゃんおばあちゃんに会えないけど会った時には、ひいおじいちゃんやひいおばあちゃんの話聞いてみたいです。

「ご先ぞさま、いのちをありがとう。」

## 柳田邦男先生からのメッセージ

〔優秀賞〕

大沢悠香さんへ

いのちって何だろうか。自分のいのちは、どこから来たのだろうか。なぜ、いのちは大切なんだろうか。……いのちをめぐっては、いろんな角度（かくど）から疑問（ぎもん）がわいてきますし、答えを

出すのは難しいですね。

『いのちのまつり』という絵本は、自分のいのちは、お母さんから生まれたというだけでなく、お母さんはそのお母さん、つまりおばあちゃんから生まれたし、おばあちゃんはさらにそのお母さん、つまりひいおばあちゃんから生まれた……というように、いのちをどんどんご先ぞさまにさかのぼって考えてみようという、ちょっと変わった本ですね。

でも、絵がおもしろく描かれているので、いのちというものを、楽しく考えられるようにくふうされています。

悠香さんは、この絵本で自分のいのちが、自分の知らない何百年も前のご先ぞさまから何代も何代もつながっていることを知って、「きせき」だと感

じたというのですね。

と感じました。

そして、「数えきれないご先祖さまがだれひとりかけてもぼうやは生まれてこなかった」と語られていることに、悠香さんは強くこころを引かれ、それまでばくぜんとしか考えていなかった「わたしのいのち」は「大切なんだ」と思うようになったというのですね。とても大事な気づきです。

悠香さんは、さらに、自分が将来結婚して子どもができたら、この絵本を読んであげようと思ったり、遠くにいるおじいちゃん、おばあちゃんに会ったら、ご先祖さまの話聞いて、「ご先祖さま、いのちをありがとう」と、感謝の気持ちを伝えたいと思ったというのです。

いのちのつながりについて、自分なりにしっかりと理解（りかい）した読み方に、私は「いいな」